

一、次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

自然のものも、たとえばイチゴなんていまは年中あります。トマトも年中あります。でもかつては旬のときしか食べられなかった。(1) 待ち遠しかった。待つ喜びがあつたわけです。そして、たとえば旬の初ものを食べると寿命が延びるなどということもいいました。あるいは去年食べたときから一年寿命があつたことを実感できるという幸せがあつたから、① そういう言葉で表したのかもしれない。レジャーにしても、お金を出して得るレジャーに流れていく生活というのは、山の緑、自然の鳥や花と触れる、そういう喜びとは別なんですね。お金で与えられる喜びの世界に身をゆだねていくことが、季節の喜びを待つ世界をも 希薄きはくにしているんです。

困ったことですが、余暇さえもお金もうけ、金主義の罫わなの中にはまっぴらようです。商品化され、密室化されてきました。子どもたちはゲームセンターに、大人たちはパチンコ屋に、コドクアな時を非自然の空間に閉じこもって遊びます。「野外での健康的なスポーツ」としてゴルフが宣伝されていますが、その会員権は何千万、一億円などという 投機とうきの対象であり、ゴルフ場は緑の山を削って人工的に芝を植えた農薬漬の世界です。

「花と緑」といえば美しい自然を連想させられますが、緑の森をつぶして、遊園地に作り変えた「花の万博」。高い入園料を払って、外国から持ち込んだ植物を無理な気候の中で育てている不自然を見ることになる。あちらこちらとあわただしく交通機関を利用して動きまわれば、一万円はすぐに飛んでしまうしくみのようです。ゆつたりと自然な花と緑をたのしむというようにはなっていないのも、② お金の世のかなしさなのでしょう。お金によつて手軽にということなのです。

いまのインスタントな時代というのは、欲望が充足されている点だけをみれば幸せそうにみえるけれども、実は大事なものを失っている。本当は不幸な時代かもしれない。

私は、いまの世の中は「お金・パニック」の時代だと思うんです。パニックといえば、思い出すのは一九七三(昭和四八)年の洗剤・ペーパー・パニックです。そのときは、イスラエルとアラブ諸国の間の国際 フンソウはもによつて、石油資源の供給不足が拡大ひろがっていたのです。世の中が石油で動いていますから、波紋はもんが立ったのです。ものの豊かな暮らしの足元がゆれたのですからパニックになるわけです。省資源・省エネの合唱が起こり、新聞が薄くなり、折り込み広告が少なくなり、深夜テレビが 自粛じじくされました。マイカー通勤から、電車通勤に切り替える動きも目立ったものです。夜の商店街のネオンの光も弱くなりました。しかし、今となっては(A)です。私たちは何を見て何を考えていたのでしょうか。

③ いまの世の中は、一見平穏ですが、実はまるでその時のように、みんながいま自分たちがどういう状況におかれているのかわからないのです。どこへいったらいいかわからない。みんな不安なのです。先行き不安だから、お金だけでも頼りにしたい。頼りになるのはお金だけだとみんな思っているのです。みんなが走る方向へ走るといのがパニックの特徴です。けれども、みんなと同じ方向に走ったからといって、救われるという ホシヨウほしやうはなんにもないんです。(2)、みんな一緒の方向を目指したら、たとえそこに出口があつても、出口の小ささに比べて集まる人が多すぎて、結局出られなくなってしまうのです。

パニックのときは、立ち止まって、さあどの方向がいいだろうと自分で考えて、みんなとちがう方向へいくほうが 賢明けんめいなのです。パニックから逃れ出て、自分はこの原理によつて生きるのだということを決めさえすれば、いまはいろんなものを選べる可能性があると思うのです。ただ、みんなが選ば ないものを選ぶには勇氣と知性がいります。エレベーターに向かってみんなが走っているのに、自分だけはちがう階段を探すようなものですからね。

しかし、勇氣と知性をもつて冷静に現実を直視しなければなりません。利己主義と利他主義、目先のことと自分のことしか考えずに走ることは、もうやめたいものです。一人一人が自分をとり戻すことが大切です。パニックが過ぎてみれば(A)という現実、私たちの愚かさや不安を本質的に反省し、のりこえていないということとです。そして、今も自分たちの足元の不安定さに脅えているかもしれない。ゆとりの ない、あわただしさの中で自分を見失っているのではないかと思われてなりません。

ひとは一人一人みんなちがうですね。みんな一緒の方向に走るのは無理なのです。しかし、同じ速さで走らされては大変です。赤ちゃんも、若者も、お年寄りもいます。元気な人も、病弱な人も・・・みんな幸せに生きる権利をもっています。ひとは個性と能力にちがいますが、それぞれに尊重され、活かされるとき幸せなのです。そのためには、立場・個性・能力の異なる他の人びとのことに配慮し、心を寄せるゆとりが

必要です。

しかし、④時間泥棒にゆとりを奪われた世の中では、すべてはお金に換算される「金主義」です。お金のためになることが尊重され、早く、大きく、能率第一で効率的にものごとがすすみます。その効率とスピードにはじき飛ばされるのは何でしょうか。元気な若者たちがスピードを出してマイカーを走らせる道は、お年寄りや障害者には歩きにくいのです。歩道橋の長い階段で肩で息するお年寄りを見かけると心が痛みます。教えられたことを要領よくキョクすることができるとは「エリート」ですが、ものごとをゆつくり考え、やさしくふるまう子が「駄目な子」と軽視されるようなことがあればヒゲキです。忙しすぎることは悲しいことです。忙の字は心を亡くすと書くのですが、忙しく動く世は人間の心も失われる危険が大きくなります。新幹線や飛行機が当たり前のように使われ、人やものが速く大きく動くこの世の中には、考えこんでしまえますね。

(槌田 劭『地球をこわさない生き方の本』より)

- ※ 希薄・・・ある要素が乏しいこと。
- ※ 投機・・・ある利益をねらってする行為。
- ※ 波紋・・・ある物事がきっかけになって次々と周囲に及んでいく影響。
- ※ 自粛・・・自分から進んで行動や態度をつつしむこと。
- ※ 賢明・・・賢くて的確な判断が下せるさま。

問一 二重線部ア～オのカタカナを漢字に改めなさい。

問二 波線部 a～d のうち、異なる品詞であるものを一つ選び、記号で答えなさい。

問三 (1)・(2) にあてはまる言葉を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア たとえば イ しかし ウ むしろ エ そして オ だから

問四 傍線部①「そういう言葉」とはどのような言葉ですか。本文中より十六字で抜き出さないさい。

問五 傍線部②「お金の世のかなしさ」を端的に表現している一文を探し、初めの五字を答えなさい。

問六 (A) には、「一度よくなったものが、再び悪い状態に戻ることを意味する慣用句が入る。次の中から適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 元も子もない イ 元のさやに納まる ウ 元が切れる エ 元の木阿弥

問七 傍線部③「いまの世の中」に必要なものは何であると筆者は考えていますか。次の中から不適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 第一に信頼できるお金を何よりも大切にすること。
イ 勇気と知性をもって冷静に現実を直視すること。
ウ 私たちの愚かさや不安を本質的に反省し、乗り越えること。
エ 立場・個性・能力の異なる他の人びとに配慮し、心を寄せるゆとりを持つこと。

問八 本文の内容と合致するものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 野菜や果物などいままで旬の時にしか手に入らなかったが、今では年中味わえ、便利になった。
イ お金を出して得るレジャーに変わり、ゴルフ会員権等あらゆる面で日本経済が潤ったといえる。
ウ いまの世の中で我々は、お金だけが頼りになるものであるという錯覚を起こしているようである。
エ 金主義の世の中では、我々は能率第一に効率的に物事を考えていかねばならない。

問九 傍線部④「時間泥棒にゆとりを奪われた世の中」とありますが、筆者は、現代のこのような世の中では、どのような危険性があると考えていますか。本文中の言葉を使って四十字以内で答えなさい。ただし、句読点も字数として考えること。

二、次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

唯^ア一、仕事が休みの日曜日。ばあちゃんは、毎週六時起きでお寺さんに説教を聞きに行っていた。俺も時々は、おやつ^{せん}の煎餅目当てでくつついて行ったが、毎週日曜日に六時に起きるなんて、とても無理だった。

ばあちゃんは信心深いというのもあったが、早くに亡くなったじいちゃんを祀^{まつ}るという気持ちが大きかったのだと思う。家にいる時も、暇さえあれば仏壇^{ぶつだん}の前にいた。毎日、仏壇に炊きたてのご飯をお供^{くわ}えしていたし、月命日ともなれば、貧しいながらも菓子や果物を供えてお祀りした。そして長い間、仏壇の前でブツブツ何か唱^なえていた。

「じいちゃんに、いろいろ話すことがあるんだなあ」ふたりの永遠の愛を感じながら、ちよつと盗み聞きしてみたのだが・・・。

「ナムアム、ナムアム・・・自分だけ天国に行つて楽しんで。ナムアム、ナムアム・・・私は朝から晩まで働かして・・・ナムアム、ナムアム・・・」

うーん、聞かない方が良かっただろうか？ でも、誰にも言えない愚痴を、天国のじいちゃんにぶつけていたんだろなと思う。ばあちゃんにとつて、「ナムアム、ナムアム・・・」というのは、もう口癖みたいなもので、仏壇の前になくても、まるで鼻歌のように口ずさんでいた。「ナムアム、ナムアム・・・」と唱^なえながら、鍋や釜を洗っているのはいつものこと。歩きながらも、「ナムアム、ナムアム・・・」と道ゆくお通路さんみたいにブツブツやっていて、いきなり「ナムアム、ナムアム、ナムアム・・・」と豆腐屋さん！お豆腐一丁ください」なんて呼び止めるものだから、豆腐屋さんも面^{めん}食^くら^っつて^いいた。さすがに「ナムアム、ナムアム・・・」と言いながら、鶏^{にわとり}をキュツと絞^しめた時は、「そんな殺^{ころ}生^な！」と思つたが、あれは鶏への供養^{くよう}の気持ちだったのだろうか。

じいちゃんを祀^{まつ}りつづけていたばあちゃんは、新聞で①自殺^{じそく}の記事を見ると、真顔で怒っていた。「②贅^{ぜい}沢^{たく}もん！」と、ひとり呟^{つぶや}きながら。「世間に見栄はるから死ぬ。うちはうちでよか」というのが、ばあちゃんの持論だった。

世間さえ気にしなければ、自殺する人なんかいなくなるというのだ。最近の四十代、五十代の自殺者のニュースを見ると、ばあちゃんの言っていたのももつともだと思ふ。中小企業の社長なんかをやつていて、事業に失敗。でも家は売りたいくない。車も売りたいくない。世^よ間^{かん}体^{たい}が悪い。だから自殺。なんて、遺^いされた家族はどうなるのだ？ばあちゃんみたいに、じいちゃんに病死されたとか、事故で亡くなったとか、そういう理由なら涙を乗り越えて頑張るよりないが、自殺なんてされたら、立ち直れるものも立ち直れない。もうダメだと思つたら、従業員に話せばいい。「こうなつたけど、また一から頑張ろうと思います。今まで通りのお給料は払えないけれど、一緒に頑張ってもらえませんか」正直に話して、みんなで真剣に話し合えば、いい知恵だつて出てくるかも知れない。今までは、社長が決断していたから口を挟^{はさ}まないで黙々と働いていた運転手だつて、実はすごいアイデアを持つている可能性があるのだ。それにきちんと話し合えば、従業員だつて仕事を失うのは辛いから、「じゃあ立ち直るまでは、俺たちも給料は半額で協力します」と言ってくれる人も出てくるに違いない。それを社長だからなんて威張^{いば}つて、頭を下げることを知らないから、すぐに「死ぬしかない」と思つてしまうのだ。家族に対しても同じだと思ふ。「とうちゃん失敗した。でも、一から頑張るからな。みんな

で、またアパートから始めよう」真剣に話せば、子どもだって、^オ狭い家は嫌だとか、小遣い減らすなんて言うわけがない。むしろ、「とうちゃん社長だ」なんて威張って、ろくろく顔も合わせず、小遣いばかり与えている時よりも、家族の絆は深まると思う。俺も芸能界にいるが、芸能人にも③世間体ばかりの人がいる。「自分は芸能人だ」「人気者だ」と(A)を高くして、付き合う相手も芸能人ばかり。しかも待ち合わせでお店に入っても、「あ、後で連れが来ます」とかじゃなくて、「あ、〇〇さんが来るので」と、わざわざ有名人の名前を出して、お店の人に有り難がられようとする。けれど、こういう人に限って人気は二三年しか続かない。彼らがその後、どうしているかは知らないが、「芸能人だった」という世間体ばかり気にしていたら、幸せな人生は送れていないんじゃないだろうか。

「④裸で生まれてきたという意味をわかってない」これもばあちゃんが言っていた言葉だ。そう、人間、生まれてきた時は身ひとつ。何も持っていないかったのだ。本当言うと、中学生ぐらいまで、自分では何も持っていない。親が与えてくれていただけだ。だから事業に失敗しようが、家を失おうが、元に戻っただけのこと。命さえあれば、やり直せるのだ。明治生まれで二度の大戦をくぐり抜けてきた⑤ばあちゃんが、いろんなものを失いながら、自分に言い聞かせてきた言葉だったのだと思う。俺たちは戦争を知らない。もっと若い世代なら、多分、本当の意味での貧困を知らない。身ひとつで生まれ落ちた先が、今の日本だったことを、まずは感謝するべきだと思う。戦争中の国や、飢餓に苦しむ国に生まれて、生まれながらに苦境に立たされる人も大勢いる。それに比べたら、不景気なんてちっぽけな話だ。

ちよつと話ば飛ぶのだが、俺は核家族化というのは大きな間違いだったと思う。とうちゃん、かあちゃん、じいちゃん、ばあちゃん、そして子どもたちという大家族が、やつぱり一番だ。かあちゃんに叱られても、ばあちゃんに泣きつけるし、とうちゃんとうまくいかなくても、じいちゃんになら理解してもらえるかも知れない。夫婦と子どもひとりなんて、子どもが追いつめられるばかりだ。行き場失って自殺する子どもは、本当に可哀想だと思う。そういう意味では、どんどん進んでいるという少子化も不安材料だ。ひとりだけに一生懸命愛情をかけて育ててきて、もし、その子が不良になったり、さらには事故に遭って死にでもしたらどうするのだ。その子だけに愛情を注いできた親は、もう立ち直れないに違いない。子どもが五人いようが六人いようが、ひとりに何かあった時の悲しみが薄れるとは思わないが、それでも他にも子どもがいれば、少しは気も紛れるだろう。だから、若い人にはせめて二人くらいは、子どもをつくって欲しいなあと思う。

(島田洋七『がばいばあちゃんの笑顔で生きんしゃい』より)

問一 二重線部ア～オの漢字の読みを答えなさい。

問二 波線部XYの意味として適切なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

X	面食らっていた	A	顔の美しい人を好んでいた	Y	世間体	A	体面
		I	突然の事にまごついていた			I	体勢
		U	迫力に圧倒されてしまった			U	体感
		E	直接、相手と顔を合わせた			E	体調

問三 傍線部1「自殺の記事」を見て、ばあちゃんは自殺の理由をどのように考えていますか。それがわかる表現を本文中より十字以内で抜き出しなさい。

問四 傍線部2「贅沢もん！」というばあちゃんの言葉にはどういう意味が込められていると考えられますか。次の中から適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 貧乏人のばあちゃんに比べれば、自殺する人の生活の方がはるかに豊かであるということ。
イ じいちゃんに先立たれたばあちゃんに比べれば、自殺した人に遺された家族の人数が多いということ。
ウ 家も車も売ることができないのに、それを惜しむあまり、自殺を選んだ人生がはかないということ。
エ 事業に失敗し、家を失おうが、命さえあればやり直し出来るのに、自殺者はその命を粗末にしたということ。

問五 (A)に、「(A)を高くして」という言葉が「得意げな様子」という意味になるように、体の

一部を表す漢字一字を答えなさい。

問六 傍線部3「世間体ばかりの人」とあるが、

(一) 作者は、自殺をする世間体ばかりを気にするような人とは、どのような人だと考えていますか。

「人」という形に合わせて本文中より二十五字で抜き出しなさい(句読点も字数に含みます)。

(二) 作者は、「世間体ばかりの人」は結局どうなると考えていますか。本文中より十五字以内で抜き出しなさい。

問七

傍線部4「裸で生まれてきたという意味をわかってない」というばあちゃんの言葉にはどういう意味が込められていると考えられますか。次の中から適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 人間は元々、裸で生まれてきたのだから、仕事等失って何もなくなっても、多くの人間は何もないのが本来の人間であるということを知らず、世間体ばかり気にしすぎているということ。

イ 人間は元々、裸で生まれてきたのだから、恥ずかしがらずに、ありのままの自分をさらけ出して自分の好きなように自由に生きていくことが大切であるということ。

ウ 人間は元々、裸で生まれてきたのだから、何も恐れず、正々堂々と生きるべきであり、逃げ道を作って現実逃避してはならず、現実から目を背けてはならないということ。

エ 人間は元々、裸で生まれてきたのだから、人生が良くも悪くもなるのは本人の気持ち次第であり、本人が正しいと決めたことを、世間を気にせずに関き通して生きていくべきであるということ。

問八

傍線部5「ばあちゃん」は本文中ではどのような存在として描かれていますか。次の中から適切なものを選び記号で答えなさい。

ア 孫の俺にとって、他人思いで頼りになる心優しい存在。

イ 孫の俺にとって、不可解な行動をとる不思議な存在。

ウ 孫の俺にとって、一つの言葉で人生の教訓を諭されるような存在。

エ 孫の俺にとって、一切の妥協を許さない厳しい存在。